

— 目 次 —

1. 第64回大会の開催について
 - 1) 大会案内
 - 2) シンポジウム概要
2. 大会個別報告申し込み、要旨作成の手順について
3. 学会賞御推薦のお願い
4. 学会誌投稿に関するお願い
5. 事務局からのお知らせ
 - 1) 会員情報の登録と更新のお願い
 - 2) 会費納入のお願い

1. 第64回大会の開催について

1) 大会案内

事務局長 林 紀代美

平素、学会運営にご協力いただきありがとうございます。2022年度の大会は、11/12(土)、13日(日)に開催いたします。現在、3年ぶりの対面での開催を模索中です。すでに各地で第7波と思われる感染者増加が報告され始めているため、実現可能性は高いといえない状況ですが、心の中で期待しておいていただければと思います。

常清秀会員にご尽力を賜り、対面の場合は開催校を三重大学として開催となりました。オンライン開催の場合は、昨年度と同様に金沢大学に事務局を置いて実施いたします。新型コロ

ナウイルスの流行状況や各種制限の実施状況を鑑み、開催方法は昨年度と同様に8月末に確定いたします。ここ2年の経験を活かしながら、また3年前の対面実施時のことも思い出しつつ、できるだけスムーズに充実した大会運営になるよう、事務局一同、努力したいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

一般報告のエントリーは、9月初旬から下旬までの予定です。多くの皆様から、様々なジャンルの課題での報告があることを期待しております。当学会の学際性が色濃く反映された聞きごたえのある報告の場になるよう願っております。

本会報の後の項でも実施概要についてご案内がありますが、現在、研究企画委員会が中心となって、シンポジウムの企画立案などを進めていただいております。新型コロナウイルスの対応状況を眺めつつの対応となるため、いつもの

ようには打ち合わせや調査など実施しづらい面もあり、関係の先生方にはご苦勞をおかけしますが、実り多い大会となるよう、11月に向けて準備を進めていただきますよう、よろしく願いいたします。

2) シンポジウム概要

研究企画委員会 委員長 常 清秀

2022 年度大会シンポジウムのテーマは下記の趣旨のもと、「沿岸漁業振興における IT&ICT 技術の活用に関する検討—水産物流通へのアプローチ—」に決定しました。

《シンポジウム趣旨》

デジタル化が進んでいる今日において、漁業分野における先端技術の活用も求められている。実際に、漁業生産、水産物流通・販売および消費者とのコミュニケーションの各段階において部分的に IT および ICT 技術の導入と活用を試みている事例が見られている。IT 技術の導入はより適格な漁業管理、より良い商品づくりに期待が寄せられている傾向が強いが、持続可能な沿岸漁業を実現するには、これらの技術の導入により得られた情報を水産物商品の取引において有利な状況づくりに如何に役に立つのかがより重要な課題である。言い換えれば、持続可能な沿岸漁業の発展の実現には、生産—流通—販売—消費の各段階で集約された情報の駆使と活用が必要であり、これは水産物のサプライチェーンマネジメント (SCM) を実現するための基盤たるものであり、喫緊の重要検討課題である。

本シンポジウムでは、こうした認識のもとで、持続可能な沿岸漁業の実現に資する「科学技術」をキーワードとして、「科学技術の進歩と漁業発展」に焦点を当てて、現段階で水産業界において活用されている IT および ICT 技術の実態や社会実装の展望を把握し、水産物流通への対応を視野に含む現段階での課題を明らかにすることを目

的とする。

《シンポジウム構成》

本シンポジウムは下記の 5 つの報告を予定しています。

第 1 報告は、基調講演として北海学園大学経済学部濱田武士教授に依頼し、漁業技術と漁業発展の歴史と変遷、特に技術と漁業生産の関係性を中心に理論的に概説して頂く。

第 2 報告は、IT や ICT 技術に詳しい三重県鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科江崎修央教授に依頼し、水産業界における IT や ICT 技術導入の実態について報告して頂く。

第 3 報告は、IT 技術導入の具体例として、三重県内マダイ養殖業者兼三重県海水養魚協議会会長橋本純氏に依頼し、IT 技術の導入状況、効果、課題、およびこれらの情報を流通段階への活用の可能性、そして、それに向けての課題等について報告して頂く。

第 4 報告は、三重県内中堅かつ優良水産企業である尾鷲物産株式会社による報告です。当企業は日本漁業が低迷しつつある中で、絶えずに企業成長と発展の道を模索しながら今日に至っている。尾鷲物産株式会社が具体的に今までどのような道を歩んできたのか。地域漁業の現状を踏まえながら、持続可能な沿岸漁業の実現に何が必要であると考えているのかについて、自社の歴史と経験に基づきながら、尾鷲物産株式会社・常務取締役玉本卓也氏により報告して頂く。

第 5 報告は、水産庁漁政部加工流通課に依頼し、国の関連制度・政策に関する報告をして頂く。今回は水産流通適正化法に関する制度の説明を中心に、水産流通適正化法に係る電子化に関する支援事業の目的と狙いも含めて説明して頂く予定です。講演者は水産庁漁政部加工流通課課長補佐富樫真志氏に依頼してあります。

コロナ禍で「ヒトの流れ、モノの流れ、カネの流れ」が滞り、会員の皆さんの研究活動、企業の経済活動のいずれにも多大な支障がきたしてい

ると存じます。こうした状況の中にも関わらず、本シンポジウムが計画予定通りに実施できるようになったのは、水産庁、研究者、地元民間企業の各方面による多大なご協力のお陰でございます。この場を借りて、深く御礼を申し上げます。

第56回大会は三重大学で開催されてから、早くも8年間の立ちました。コロナが収まり、第64回大会も三重大学で対面実施できるようにお祈

りしております。また、研究企画委員（波積・河原・池口・原田・崎田）全員一同、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

なお、各報告のテーマと要旨、および大会のコーディネーター、コメンテーター、座長等の詳細については、9月会報でご案内を致します。

2. 大会個別報告申し込み、要旨作成の手順について

事務局

以下の図は、大会一般報告の申し込み手順です。対面あるいはオンライン開催かの決定は8月末を予定しています。現時点ではどちらの開催となるかは判断しかねるため、開催方法を併記しています。11/7ごろ予定の「学会HP上に一般報告の要旨集を提示」までは同じスケジュールを進めて参りますので、ご確認の上、エントリー手続きをお願い致します。

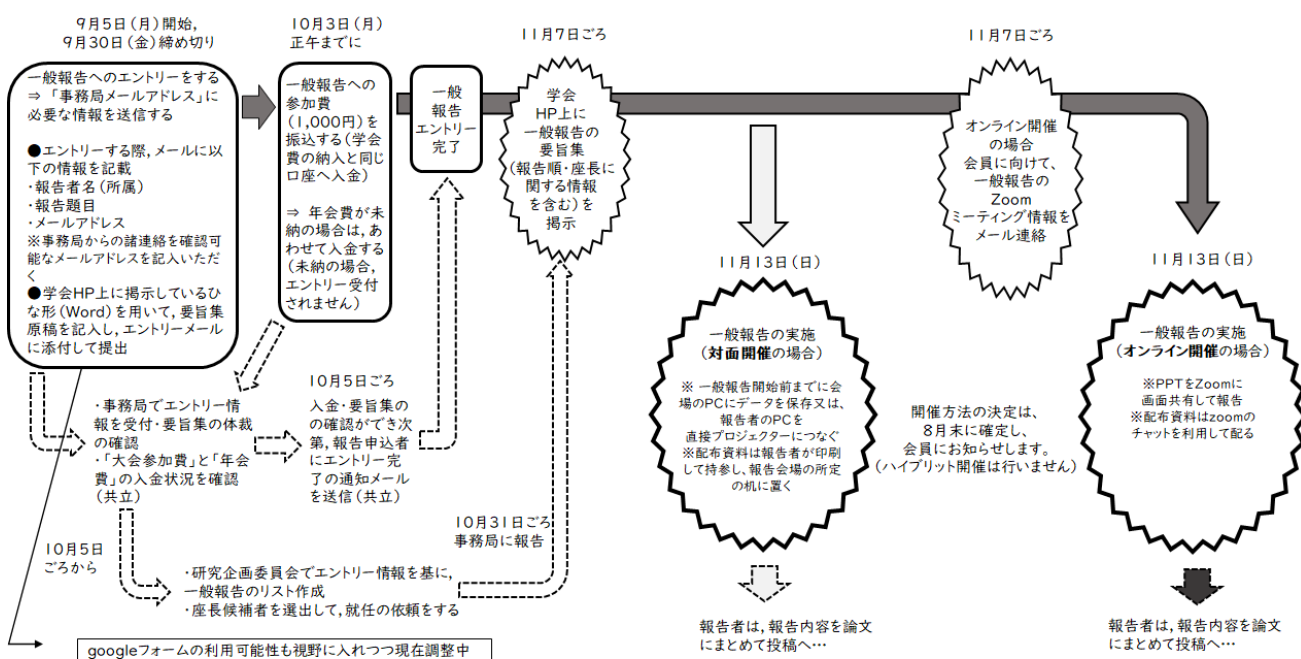


図 第64回大会での「一般報告」の実施体制と作業手順・時期

1) 開催日・場所と実施方法について

先述のとおり、今年度の大会は、11/12（土）、13日（日）に開催いたします。11/12（土）、13日（日）に対面の場合は三重大学、オンライン実施の場合は金沢大を事務局にして開催いたします。対面・オンライン実施のどちらになるかは、8月下旬にその時点での新型コロナウイルスの流行状況や対応措置の実施状況、三重大学の感染防止対策・規定を踏まえて、会長・事務局で協議の上、確定いたします。

2) 一般報告のエントリーについて

一般報告のエントリーの期間は、9月初旬から下旬にかけての予定としています。現在、学会報告を予定されている研究成果をお持ちの方、現在・これから調査を実施される方は、ぜひ当学会大会でご報告いただくことを検討いただき、スケジュールを確保していただけると幸いです。

なお、エントリーの方法は、昨年度の実施要領に準じる予定ですが、google フォームの利用可能性も視野に入れつつ現在調整をしているところです。また、大会でご報告いただいた場合には、学会誌のなかの速報性を重視した区分「報告論文」に投稿が可能で、迅速、多彩な情報発信を支援するため、通常の論文投稿より投稿料が割安となっております。ぜひ、積極的、戦略的にご活用ください。

3) 大会スケジュールについて

1) にある 8 月下旬の開催方法の確定時に、2 日間の大会スケジュールの詳細についても決まることとなります。現時点では、昨年度の実施状況を踏まえてスケジュールを検討しています。おおよそ、以下の流れとなる見込みです。

11 月 7 日ごろまで：ここまでに各種委員会を開催（メール配信、オンライン等を活用）。

※各委員会には事務局に審議内容と理事会報告資料を送付していただく予定です。

※地区部会の部会長の方には、部会活動報告の有無についてご連絡いただく予定です。

11 月 12 日（土）午前の部：

理事会 9 時～11 時

総会 11 時半～12 時

11 月 12 日（土）午後の部：

シンポジウム 13 時～17 時

*オンライン開催の場合には Zoom 対応とします。

※感染対策を鑑み、今年度も対面での懇親会は予定しない見込みです。

11 月 13 日（日）午前の部：

個別報告 9 時～12 時、13 時～16 時

* 1 報告 30 分

（報告 20 分、討論 10 分）。

発表スケジュール表及び要旨集は、例年通り作成し、HP に掲載します。

3. 学会賞御推薦のお願い

学会賞選考委員長 波積 真理

「学会賞」、「学会奨励賞（中楯賞）」、「学会功労賞（柿本賞）」の御推薦をお願いいたします。

なお、内規では推薦の締切は大会の 1 週間前となっておりますが、できましたら 10 月 21 日（金）

までにお送りいただきたくお願いいたします。

メール審議、オンラインでの委員会となるため、時間を要します。推薦の手順、様式等については、以下の URL をご参照ください。よろしく
お願いいたします。

地域漁業学会の HP、学会賞のページ
<http://jrfs.org/syo.html>

4. 学会誌投稿に関するお願い

編集委員会 竹ノ内徳人

当学会編集委員会では学会誌の発行を例年どおりに行う予定です。皆様の研究活動を微力ながら支援させていただければと思っております。今回も第 62 巻第 1 号をシンポジウム特集号として発行させていただきました。また第 2 号も鋭意準備中です。

コロナ禍において会員の皆様の研究活動も不自由を強いられていることと存じます。近年それらと連動するように論文原稿の投稿数も厳しい状況が続いております。

昨年来から学会誌投稿のシステム改善や投稿料の引き下げ等を実施しております。過去 2 年（第 61 回・62 回大会）において学会報告し、なおかつ論文投稿されていない原稿も引き続き受け付けたいと考えております。これらの機会をご活用いただき、積極的にご投稿いただきますようお願い申し上げます。

5. 事務局からのお知らせ

1) 会員情報更新の登録と更新のお願い

従前よりお願いをしていますが、メールアドレスの変更、住所変更といった会員情報の更新については、本学会の HP 上で行えます。大会開催に関する情報などのお知らせの受け取り（メールの配信数は多くはありません）にも便利です。（<http://jrfs.org/nyukai.html>）

不明な点がございましたら、ホームページ上の問い合わせメールでお願いします。事務的なことについては、共立のご担当者がおこたえいたします。

2) 会費納入のお願い

第 63 期会費納入、及び過年度分についても納入をお願いいたします。詳しくは、今年 1 月発送済みの請求書をご確認ください。

地域漁業学会 <http://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル (株)共立 内

(担当：地域漁業学会) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替：01750-0-83886

銀行振込：三菱 UFJ 銀行 新富町支店 普通 0146078